

令和6年度 第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会会議録 概要

【日 時】 令和7年2月14日（金曜日）14：00～15：30

【場 所】 美濃加茂市生涯学習センター203会議室

【出席委員】 敬称略

竹内 信仁 能島 暢呂 山岡 富美 高橋 邦彰 佐古 恵子

【美濃加茂市】 建設水道部長 桜田 純治

【事務局】 上下水道課長 櫻井 英樹 建設係長 田口 直孝

下水道維持係長 酒向 一也 経理係 井上 周哉 新名 隼也

【傍聴者】 なし

【会議内容】

1 開会

配布資料確認

欠席委員確認（欠席委員：西田委員 小川委員 上野委員 奥野委員）

2 会長あいさつ

埼玉県八潮市で下水道管の周辺の土砂流出による道路陥没事故が発生し、多くの住民に影響が出た。下水道は生活に必要なインフラであり、早期に復旧されることを願っている。美濃加茂市でも同様の事故が起きないように気をつけていただきたい。

今回の審議では、下水道事業経営戦略の前回からの変更点の説明の他、水道事業および下水道事業の令和5年度決算概要の報告が主な内容となる。本日も委員の皆さんから多くのご意見をいただくよう、よろしくお願いしたい。

※以降、竹内会長が「議長」となり、会議を進行。

3 議事（説明事項・報告事項）

（1）前回議事録の確認について（報告事項）

事務局より、資料1「令和6年度 第1回美濃加茂市上下水道事業経営審議会会議録概要」について、能島委員及び佐古委員に内容を確認していただき、会議録署名者として署名いただいたことを報告。

（2）美濃加茂市下水道事業経営戦略（案）について

事務局より、資料3「美濃加茂市下水道経営戦略概要版への指摘事項及び変更（修正）点一覧」に基づき、資料2「美濃加茂市下水道事業経営戦略（案）概要版」の前回会議からの変更点について、説明。

《質疑応答（抜粋）》

（A 委員）資料の中で人口減少に関する表記について表現の違いがみられる。

意図するところは同じかと考えるが、人口見通しについて実際はどのように捉えているか。

(事務局) 将来的な見通しとしては減少すると見込んでいる。しかしながら、現状で人口は微増していることや、国立社会保障・人口問題研究所の人口見通しにおいても上向き修正されたことから、料金収入に大きな影響が出るほどの大幅な人口減少は見込んでいない。また、政策的な面においてもできるだけ人口を維持していく方針であるため、「人口減少」という文言を見直したところがあるが、それぞれの箇所の表現の仕方については再度見直したい。

(A 委員) 経営戦略期間の10年間に於いて、人口減少はさほど深刻ではないが、それ以降では大きな減少がみられる。一方で、施設の老朽化の影響は令和20年度以降であり、人口減少と施設の老朽化の問題が同時に顕在化していくことが考えられる。どのスパンで各データを見るかによって表現も違ってくることがあるため、表現を見直す余地があるのであれば考慮してほしい。

(B 委員) 将来的に、施設の老朽化による改修時期を迎えた頃には、高齢世代を中心に大きく人口が減少している可能性が高い。人口がそれほど増減しないという前提で計画を作成すると、先々に見直しが必要な状況が予想される。5年毎に計画を見直す前提であるが、どこまで推測を盛り込んでいくか難しいところ。

(事務局) 人口の予測は難しいところがあるが、例えば「今後10年間は大きな変動がない」といった表現にするなど、表現の仕方を見直したい。

(C 委員) 老朽化した施設の更新のタイミングについてはどのような計画か。

(事務局) 管路の更新について、新設に比べて修繕に対しては国の補助金は多くなく、新設時期のように一度に実施することはできない。修繕や更新の必要性の高いところや幹線などの影響の大きな管路から中心に、施工方法の検討もしながら計画的に順次進めていくことになる。

(D 委員) 事故を未然に防ぐために老朽化の状況の検査やその順番を計画に入れていく必要がある。事故が起きる前に予防的な対策に取り組んでほしい。

(事務局) 八潮市での事故後、市が管理する下水道管路の約440kmのうち口径が1mを超える大きな管路の約129mについては土砂の堆積状況などを確認している。下水道管内には硫化水素が発生しており、状況の確認は、危険を伴うものとなっている。また、八潮市の下水道管路はとても大きな管で地下深くに埋設されているが、市の管理する管路は比較的小さく、浅い位置に埋設されている。太田町、古井町、などにある岐阜県が管理する流域下水道については口径が大きく深い位置に埋設されている管路があるが、県による目視点検が実施され、大きな異常は見つかっていない。今後も定期的な点検が必要だと認識している。

(B 委員) 農業集落排水事業の経費回収率が低い状況である説明として、施設の維持管理費に対して使用料収入が少ないと記載があるが、なぜ使用料収入が少ないのか。

(事 務 局) 農業集落排水は下水道事業として実施しているが、公共下水道とは違い、一部の集落の排水をまとめて処理する集中浄化槽に近い考え方により設置されているものである。比較的少ない世帯数が対象となることから使用料収入が少なく、維持管理費を賄うことができないという組み立てから始まっている面がある。農業集落排水事業を始めた頃は市内の下水道化を進めている時期であり、小さい規模の施設でも整備が進められてきた経緯がある。

(B 委 員) 農業集落排水の管を他の下水道処理場につなぐことはできないか。

(事 務 局) 稲辺の農業集落排水事業については蜂屋川クリーンセンターにつなぐことを検討しており、経営戦略の案の中でも終末処理場の統廃合について記載している。現状としてはすぐに統合できる状況にはないが、施設だけではなく維持管理などの面も含めて関係各所との調整を進めている段階である。

(B 委 員) 市内の農業集落排水と下水道では料金体系の差はあるか。

(事 務 局) 料金体系に差は無い。

(E 委 員) 稲辺農業集落排水事業を統合した場合にどれほどのコストが下がると予想しているか。

(事 務 局) 処理場単位で細かく総コストを算出していないが、令和5年度決算ベースでは、料金収入が650万円程、対して、処理場の維持管理費に減価償却等の費用も加えると、費用全体として2,300万円程という状況である。

(B 委 員) 大きく赤字が出ているということになるため、全体の処理費の事を考えると一日も早く統合した方が良いのではないか。

(事 務 局) 様々な調整をしながら検討を進めていく。

(A 委 員) 先ほど劣化という面で硫化水素の話があったが、流下機能が低いところで問題が生じたということで、美濃加茂市の中で弱点となりそうな箇所は、ある程度予測できるものか。

(事 務 局) 美濃加茂市が管理する管路のうち、硫化水素の影響で腐食しやすい特性があるコンクリート製の管路は約11kmであり、その他、多くは硫化水素の影響が少ない樹脂製の塩ビ管が使われている。マンホールはコンクリート製となっており、特に、落差の大きい箇所やポンプで圧送している箇所など汚れや堆積が多い箇所等については、マンホール内に汚れが付着してガスが発生しやすいこともあり、そういった箇所を中心に5年に1回検査をして、管の腐食度合の調査を実施している。

(B 委 員) 設置されている地形にもよると思われるが、主要管は震度いくつまでもつようになっているか。

(事 務 局) 下水道管の耐震基準が変更された平成10年度以降に設置したものは基本的に耐震性がある管路となっており、概ね市内の管路の66%弱が耐震性のある管路となっている。

(3) 令和5年度決算(水道・下水道)について

事務局より、資料4「令和5年度水道事業会計決算・決算概要図」について説明。

《質疑応答(抜粋)》

(A 委員) 収益的収支の純利益について、令和4年度のマイナスに対して比較増減はプラスの比率であり、マイナスとプラスの比率の記載はこれで良いか。

(B 委員) マイナスの部分をプラスに加算して比較したものではないか。

(事務局) 委員ご認識のとおりで、計算式上はこのような表現となる。

【議事録確認における委員からの指摘事項及び今後の対応】

〔指摘事項〕

純損益(差引した数値)の増減率について、負数から正数への比較増減の場合には増減率による表記の意味が無く数値として示すべきではないと考える。

〔対応〕

委員ご指摘のとおり、増減率を表記する意味が無いことから、負数から正数及び正数から負数への増減比較の場合には増減率欄の表記をなくすこととします。

(B 委員) 長期前受金とはどういったものか。

(事務局) 建設事業の補助金は減価償却に合わせて年度割するので、そういった財源を長期前受金として計上している。

(E 委員) 水道も下水道も不足額が資本的収支で出ていますが、これはやむを得ないものか、あるいは改善する方法はあるか。

(事務局) 公営企業会計では、収益的収支と資本的収支の2つの財布をもって会計制度となっており、施設の建設費や償還費に係る資本的収支の財源は国庫補助金や企業債等となっているが、特に償還費については収益的収支で発生してくる収益等でその補てんをするという仕組みになっていることから、会計制度の構造的に不足額が発生するものとなっている。

(E 委員) こういった内容を住民に対して説明できるようにしておく必要があると思うが。

(事務局) この会計の仕組みを住民の皆さんに理解していただけるように、広報に情報を出す際の表現についても苦慮している。

(B 委員) 計画の中にもわかりやすい情報提供に努める旨の記載があるが、例えば、料金を値上げする場合には、料金が上がる理由が市民にとってわかりやすい内容と表現にしなければいけない。簡単にまとめると、「将来的にこれだけ施設の改良費用がかかることを見込んでおり、施設の維持管理費を賄うためには皆さんの負担している料金では足りないため、少なくとも収支均衡するような料金まで値上げにご協力いただきたい。」といった書き方になろうかと思う。

(事 務 局) 将来シミュレーションを提示しながら市民の皆さんに理解していただくことを心がけていく。

(E 委 員) このままの状態でも経営を続けていけると住民は認識している。一般会計からの負担があって経営が成り立っていることを住民が理解できるようにした方がよい。

(B 委 員) 令和7年度は水道事業の予算が大きく減額されているようだが。

(事 務 局) 水道事業は令和6年度と比較して減額となっており、これは下水道事業会計への長期貸付金をなくしたことによるものであり、一方で、下水道事業は全体事業費が増加している。新聞報道では公営企業会計全体としての記載であったため、減少という表記になっている。

事務局より、資料5「令和5年度下水道事業会計決算・決算概要図」について説明。

《質疑応答（抜粋）》

(B 委 員) 下水道事業は多くの施設が必要な事業であるからどうしても減価償却費が大きくなる。施設更新時期にはまた増加することになるか。

(事 務 局) 委員ご認識のとおり。

(B 委 員) 大きな赤字が出ているということも無いため現状では順調に進んでいるという認識で良いか。

(事 務 局) 一般会計からの繰入金に依存している面があることが課題となっている。

(E 委 員) 一般会計の財政状態は厳しい状態か。

(事 務 局) 令和7年度予算は増額で計上されており、地方債の償還金は減少傾向であることもあり、現状では健全経営である。

4 会議録署名者の指名

議長より、会議録署名者2名（山岡委員、高橋委員）を指名。

5 その他

事務局より、委員任期終了に伴い、次年度以降の委員継続に関するアンケート調査について説明。

6 閉会

令和6年度第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会 会議録署名

令和6年度第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会の会議内容について、
別紙会議録のとおり相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和7年 8 月 26 日

会議録署名者

山岡 富美

令和6年度第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会 会議録署名

令和6年度第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会の会議内容について、
別紙会議録のとおり相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和7年 7 月 18 日

会議録署名者 高橋 邦彰